

社会情報学部

ハンセン病療養所栗生楽泉園ボランティアガイド養成及びスタディーツアー実施事業

担当学部等 社会情報学部

担当学科等 情報行動学科・情報社会学科

担当者 西村 淑子 教授

◎事業概要

群馬県草津町にある国立ハンセン病療養所栗生楽泉園は、ハンセン病患者隔離政策の歴史、患者・入所者の体験、差別の問題を学ぶことのできる重要な場所である。2014年5月には重監房資料館がオープンし、来場者が増加している。

しかし、療養所では入所者の高齢化が進み、入所者みずから来場者を案内することが年々難しくなっており、ハンセン病問題の風化が懸念されている。

そこで、ハンセン病問題に対する正しい知識を普及し、ハンセン病に対する偏見・差別を解消すること、患者・入所者の「声」を語りつぐことを目的として、一般市民を対象に、栗生楽泉園のボランティアガイドを養成するための講座を開講した。

また、2014年9月から10月に、一般の市民が無料で参加できる栗生楽泉園スタディー(バス)ツアーを主催した。その際、上記養成講座を修了したボランティアガイドが、ツアー参加者を案内した。

後援:群馬県、群馬県教育委員会

◎実施事業等

「国立ハンセン病療養所栗生楽泉園ボランティアガイド養成講座」

8月16日(土)受講者23名

多摩全生園ハンセン病資料館

講師:佐川修さん

8月23日(土)受講者21名

栗生楽泉園重監房資料館等

講師:藤田三四郎さん

8月30日(土)受講者40名

(1)ハンセン病国賠訴訟について

講師:矢田健一弁護士

(2)地域住民による患者支援活動について

講師:吉田一蓮さん

(2)ハンセン病と医療倫理について

講師:宮坂道夫教授

修了者14名

「国立ハンセン病療養所栗生楽泉園スタディーツアー」

9月13日(土)参加者23名

10月4日(土)参加者24名

10月18日(土)参加者40名

◎期待される成果

本養成講座の受講者は、

①ハンセン病資料館を見学し、ハンセン病問題の全体像を理解することができる。また、その背景や原因、今後同じような過ちを犯さないためにはどうするべきかを考える。

②入所者の方に直接会い、お話を伺うことにより、入所者の様々な経験や気持ち、考えを知ることができる。

③栗生楽泉園重監房資料館を見学し、ハンセン病隔離政策の実態を知ることができる。

④現在入所者が暮らす療養所を見学することにより、入所者の置かれている環境を知り、今後の療養所のあり方について考える。

⑤養成講座修了者は、ツアーでガイドを実践することにより、ハンセン病問題の正しい知識の普及、偏見・差別の解消に貢献することができる。また、ガイドの実践を通して、ハンセン病問題について、さらに理解を深めることができる。

栗生楽泉園スタディーツアーの参加者は、ハンセン病問題や栗生楽泉園について知り、地域住民がこうした問題に関わることの重要性を認識することができる。